

新商品に関する技術開発と知財活用の実践

会社名 株式会社K4
 所在地 山梨県南アルプス市大師712番地
 従業員 8名(2025年8月現在)
 資本金 300万円
 売上高 1億円
 業 種 ジュエリー・アクセサリ製品の製造販売



支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 今後、自社としてさらなる業績拡大を視野に入れ、既存のジュエリーやアクセサリだけでなく、コインホルダーの製造販売を考えていた。
- しかし、それを支えるビジネスモデルや知財戦略、生産技術戦略の検討については進んでいない状況であった。

支援を受けてできるようになったこと

After

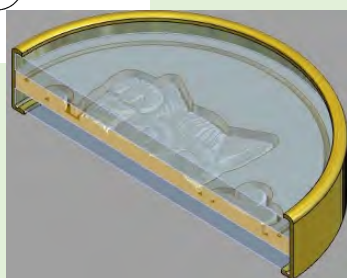
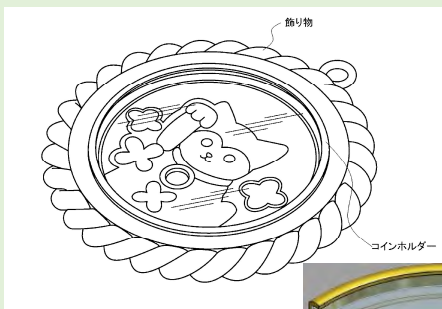
- 品質と生産性を前提に、最適な治具、金型、機械を自ら開発あるいは購入し、コインホルダーの量産・商品化に目途をつけた。
- コインホルダーの設計、生産面で多くの知見を獲得した。独自ノウハウについては、営業秘密管理下に置く戦略的な取り組みを始めることができた。

今後の事業展開の展望

Future

- 非防水型及び防水型コインホルダーの拡大に努め、特に防水型コインホルダーではそのオリジナル性を生かして市場を席けんしていく。
- ブランディングの一環として、自社サイトの開設等を行い、自社の強みである技術、品質、管理能力の高さを関係先へ伝えていく。

加速的支援を受けた事業や商材



自社は貴金属加工技術を母体として、ネックレス、イヤリング、ブレスレットなどのジュエリー、アクセサリの完成品、半完成品を多種製造し、BtoBを主体に販売を行っている。

今後、業績拡大を視野に入れ、既存商品に加え、新たに開発した防水型ホルダーと、その外周に装飾部材が装着された防水型コインホルダーの製造販売を予定している。



加速的支援を実施するにあたって整理した課題

取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
事業戦略策定	コインホルダーの製造、販売を考えているが、目指すQCDを達成するには整理された事業化計画が必要である。
マーケティング・ブランディング	事業拡大には、ブランディングの視点で、強みである技術、品質、管理能力等を整理する必要がある。 それらを発信する一手段として、自社サイトの開設を検討すべきである。
知財戦略策定	権利取得はしているが、他にも多くの技術ノウハウを持っているから、営業秘密管理の視点でも知財戦略をブラッシュアップした方がよい。
生産体制等整備	コインホルダーの量産、商品化のためには、その生産技術の確立が急務である。



加速的支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと

支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
事業戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> 技術の難度、必要な設備、必要納期を勘案して、防水・非防水型コインホルダーに分けて開発＆商品化計画を策定し、開発商品化をほぼ計画通りに推進できた。 	技術士 弁理士 よろず支援拠点
マーケティング・ブランディング	<ul style="list-style-type: none"> 強み、ミッション、思い、将来構想等ストーリー性を持って整理した。さらに、これをベースにして自社サイトのフレームワークを作った。 ブランディングを念頭に、「防水性能に関する標準化」に取り組み、試験機も開発した。 	ブランド専門家 デザイナー
知財戦略策定	<ul style="list-style-type: none"> 自社の開発・製造工程等の中から多数の技術的特徴を抽出でき、それらの整理もできた。 これらの特許出願すべきものと秘密管理対象とに仕分け、営業秘密管理の面から知財戦略を強化した。 	弁理士 知財EX
生産体制等整備	<ul style="list-style-type: none"> 生産技術に関連して各種助言を受け、コインホルダーの量産・商品化に目途をつけた。 製造に必要な金型や治具開発だけでなく、高品質化、高付加価値化のために製造機械、分析機器を導入した。 	技術士 弁理士

支援チーム紹介

主担当専門家：弁理士 田中正男

活用専門家：技術士、ブランド専門家、デザイナー、知財EX、よろず支援拠点

知財総合支援窓口担当者：山梨県知財総合支援窓口 近藤功

PO(プログラムオフィサー)：中隆廣